

スマホと子どもとわたし

ここきて、子どもをスマホにとられてしまったような気分になっています。

制限かけても突破され、通知音はうるさくて、そのつきあい方でよいのか？と、思っているのはわたしだけ？

つい手にすると、あっというまに時間がたって…。次々に流れてくる動画、終了するには、強い覚悟が必要です。おとなだって、いままでなかった便利なものに出会ってしまって、いつのまにか巻き込まれているその影響力に、圧倒されているのではないのでしょうか。

そんなこんなで、母は思いました。わたしたち親世代は、スマホのない子ども時代を過ごしてきました。テレビだって、好きなきにすぎなもの、というわけでもなかったから、週に一回の放送日が待ち遠しいものでした。外でもだちと遊んだり、ひとりの時間は本読んだり、絵をかいたり。スマホはなかったけど、楽しいことはたくさんあって、たぶんそれぞれがやりたいことをしっかりやっていたように思います。

NPO法人化25周年

『ORIORI プロジェクト』

皆さんから提供していただいた布。これらを細く裂いて、みんなで織り込んで一枚の幕をつくろう。ブロック会、プレーパークなどで広げます。見かけたら、皆さんもひと織りしてってください。2月の25周年記念では、完成をお披露目。その後は、こどもステーション山口の行事の彩りに一役かってくれますよ。



スマホを手に入れた子どもたち。忙しい日々の合間の時間、スマホを見ることでほっと一息ついているみたい。その気持ちも、わからなくはないけれど、でも、ただでさえ自由な時間があまりないのに、その貴重な時間をすべてスマホにとられてしまっているのかなと思います。ほかにたくさん楽しいこと、あるって知っているのかな？すべてとおりすぎてしまっていないかな？

愛知県豊橋市で、スマホの適正使用を推進する条例が10月から施行されました。余暇としての利用する時間の、一日の目安は2時間以内、小学生以下は午後9時まで、中学生以上18歳未満は午後10時まで。賛否はいろいろあったそうですが、なんとなくで使いすぎちゃっている感じがしているわたしは、わが身をふりかえるきっかけになりました。あんなに小さな画面に、長い時間くぎづけになっているんです。目だとか脳だとか身体とか、なにかしらの負担があることは想像できます。

便利なスマホ、いまさら手放すつもりはないんだけど、一緒にダラダラ過ごすのは、もったいないよね、って。それ以外の楽しいこと、たくさんみつけてほしいなと思います。生まれたときからスマホが身近な子どもたちに、さて、どうすれば伝わるのか。最近では、使いすぎを管理するアプリなどもできています。一度、立ち止まってみるタイミングなのかもしれません。(カキタ)

大学生と遊ぼう！

インプロワークショップ『なんでも広場』

山口学芸大学からの誘いで、学生さんと一緒に「インプロ遊び」をしています。台本のないテーマに沿って、その場で自由に表現するインプロ。集まった参加者は、何を表現しているか当てたり、即興劇に参加したり。先生を目指している学生さんたちは全力で遊んでくれるので子どもたちに大人気です。

■次回は11月29日(土)、1月25日(日)の予定です。



Line Up

舞台鑑賞会の予定

対象年齢 乳幼児 低学年 高学年
 変更になることがあります。ご了承ください。

スイミー/ヤン助とヤン助とヤン助と
 11月16日(日) 《人形劇団ブーク》
 山口市市民会館 小ホール

2026

URASHIMA/やぎのおはなし
 1月17日(土)
 《パペットシアターゆめみトランク》
 山口市市民会館 小ホール

イノシシと月《劇団さんぽ》
 3月14日(土)
 山口情報芸術センター スタジオB

毎月1回 いちにちプレーパーク開催
 毎月第2火曜 幼児クラブモコナ開催

赤れんがだよ

クリエイティブ・スペース赤れんがは、認定NPO法人こどもステーション山口が指定管理者となっています。

3月6日(金) トリオコンサート

プレーパーク通信

年明けの1月、おかやまプレーパークのプレーリーダーマッキー(久保田将裕さん)がやってくる！

山口市男女共同参画センターゆめぼら講座

こどもの遊び場で考えるジェンダー

マッキーに聞いてみよう、話してみよう！

1/9 (金) 19:00~20:30
 山口市男女共同参画センター
 参加無料・要申込

プレーパーク in 赤田神社
 1/10 (土) 10:00~15:00
 マッキーが、プレーカーに遊び道具をいっぱい詰めてやってきます。特別な1日、いっしょに遊ぼう。参加無料

その他の予定 12/7(日) 赤田神社

編集後記

■思いどおりにならないことが多すぎて、そんなもんだと諦めることに慣れてきて、それはそれで生きやすくなってきた。譲れないときもあるけれど、毎回全力だと身体もたないもんね。(カキタ)

■今号で団体の歴史を振り返った。大量の写真、映り込む人数の多さに驚く。'70/'80年代。山口市に、日本に、もっと活気があったのかもしれないと思った。(クラタ)

■記事のスマホの話、身につまされる。条例が施行されて家庭で話し合うきっかけとかになったのだろうか。わが子はゲーム。飽きないらしい。「それ以外のたのしいこと」もたくさんあるだろうに。でもこちらもスマホで時間を溶かしてしまうからなあ…。(ナガタ)

YA!

[こどもステーション山口 広報紙]

2025年11月1日 発行
 発行/認定NPO法人こどもステーション山口
 ご意見・ご感想お待ちしております。
 〒753-0047 山口市道場門前2-4-20-2F
 TEL・FAX 083-925-1486 ☒co26station@yahoo.co.jp
 OPEN 火～金10:00～17:00

さまざまな体験・たくさんさんのなかま…そんな出会いの中で子どもたちがいきいきと活動しているようすなどをお伝えします

あそぶ・かんじる・そだつ

vol.
 117



山口おやこ劇場から NPO 法人こどもステーション山口へ、そして現在 1-2p

子どもたちの体験と活躍がステキ! 3p

スマホと子どもとわたし 4p

こどもステーション山口は、NPO 法人化 25 周年を迎えます。

非認知能力、成功体験、生きる力…。子どもにまつわる、ちょっとよさそうなたくさんのキーワード。そんな言葉がなかった時代から、子どもたちのよりよい育ちのために、活動してきた人たちがいます。

学校の体育館で、お芝居をみたことありますか？

1980 年代に盛んだった学校公演
 見慣れた体育館が立派なステージになり、いつもと違う風景がひろがります。
 ただそれだけでワクワク。
 一体いまからなにが起ころのか、ドキドキしていたのを覚えています。

その裏には、現場の先生たちの、子どもたちに作品をみせたい、という思いと、大変な努力があったそうです。
 現在でも、学校公演と呼ばれる小中学校への巡回公演は行われていますが、その数は子どもの数の減少やコロナなどの影響もあり、とても少なくなっているそうです。



学校公演は、経済的な問題や文化への関心度などに関係なく、子どもたちみんなが鑑賞できる機会。子どもの貧困や体験格差が問題となるいまこそ、必要なものだと思うのですが。その数が減っているというのは、とても残念なことです。

そもそも、子どもに向けての演劇(児童演劇といいます)は昔からあるものではなく、戦後誕生したといわれています。
 戦争という時代を生きぬいた人たちの、平和への思い、子どもたちを笑顔にしたいという願い。簡単に言葉では言い表せないであろう、さまざまな熱い思いが、多くの劇団と作品をうみだしました。

戦争を知らないわたしたちには、当時の人たちの思いすべてを、わかるはずがありません。ただ、自由を奪われ、思うままに表現することを許されなかったことの苦しみや悔しさは、なんとなく想像することはできます。そこから解放されたとき、思いを届けることができるという喜びも。その時代にうまれた劇団の多くは、いまでも当時の思いをもったまま、たくさんの作品を届けてくれています。
 やなせたかしさんのドラマが話題になりました。アンパンマンのミュージカルが上演されたあのこと。ひもじさは正直わからない。だけど、作品を通して、その想いに触れることができます。それが、文化というものなのだろうと思います。ただおもしろい、楽しかったと消費されるだけで終わらない、その先がある作品。子どもだましではなく、子どもをひとりの観客と

→2 ページへつづく

2025 年 11 月 1 日 発行(年 2 回)
 発行 / 認定 NPO 法人こどもステーション山口

NPO 法人化 25 周年
 特集号

1996 年「忍者修行」のようす

山口おやこ劇場
 設立からは52年！

とらえ、全力で届けようとするのでできる作品。どうなっちゃうんだろう、どういうことだったんだろうと、考えさせられたり、あれこれ想いを巡らせることこそ、舞台を見ることの面白さ。そんなふうにできた作品のなかには、いまでも上演が続いているものもあります。

そして、こどもステーション山口のもととなる、子ども劇場・おやこ劇場が生まれたのが、その少しあと。テレビの番組やテレビゲームに子どもたちが夢中になり、消費の対象となってしまうことを危惧した母親や青年が立ち上がったのがはじまりでした。1960 年代、福岡ではじめて誕生した子ども劇場は全国に広がり、多くの、本当に多くの子どもたちがさまざまな活動を通して豊かな心を育てていきました。その広がりには、劇団の人たちの努力も大きく影響

していました。各地を巡りながら、その必要性を伝え、関わる人たちを結びつけ、勇気づけ、全国各所に子ども劇場やおやこ劇場ができていったのです。

さらには、真剣にまじめに、子どもの文化を守るために、おそらくほぼボランティアで活動していたお母さんたちの力。子どもの豊かな文化環境をつくりだすという目標は、やがて自分たちの意識も変え、そして子どもを変え、世の中はきっと、子どもを守らなければという方向に、少し動いたのだと思います。

それから 50 年あまり。

山口おやこ劇場として誕生したこどもステーション山口は、2026 年 2 月、法人化から 25 年を迎えます。

(カキタ)

山口おやこ劇場から NPO 法人こどもステーション山口へ、そして現在

1974 年	2 月	山口おやこ劇場発足(全国 94 番組)	
1975 年	6 月	第 1 回子どもまつり	運動会、創作遊び、買い物バザー
	7 月	第 1 回キャンプ	123 名！参加
1978 年	9 月	地域公演開始(4 会場)	
1986 年	2 月	第 1 回文化まつり(現る・リ・フリー)	16 チームの参加
			2020 年 公式ウェブサイト 開設
2000 年		こどもステーション山口設立	YA! 発行
2001 年	2 月	NPO 法人格を取得し、NPO 法人こどもステーション山口発足	
		「高学年文化まつり」から「こどもステージる・リ・フリー」へ改名	
		保育スタッフ派遣事業アボカドベビー開始	
2003 年		YCAM 保育スタッフ派遣開始	
2006 年		地域公演が「あっちこっち de アート」に	
2007 年		クリエイティブ・スペース赤れんがの指定管理・運営開始	
2009 年		事務局移転(中央 5 丁目→道場門前)	
2010 年		アートスタート開始	
2013 年	2 月	認定 NPO 法人こどもステーション山口に	
		NPO 法人 10 周年記念誌発行	2014 年 YA! リニューアル A4 版カラー 4 頁に
			2019 年 YA! リニューアル B4 版に
2019 年		「プレーパークを山口に」実行委員会立ち上げ	
		月に一度の「いちにちプレーパーク」スタート	
2020 年		新型コロナウィルスの影響で多数の公演が延期・中止に	
			2020 年 こどもステーション山口の 新ロゴマーク誕生
2022 年		NPO 法人 20 周年記念舞台鑑賞会「わたしとわたし、ぼくとぼく」	
2025 年	5 月	理事長交代(山本有希さん→福山枝里さん)	
2026 年	2 月	NPO 法人化 25 周年	



1976 年 第 2 回子どもまつり



1988 年 地域公演



2000 年 こどもステーション山口 設立



2001 年 る・リ・フリー

新理事長誕生。

今年 5 月、2003 年から 22 年間にわたって理事長としてこどもステーション山口を支えてきた山本有希さんから、福山枝里さんへと理事長が交代しました。二人は、それぞれ、成人された息子さんのお母さん。長く見守ってきたこどもステーション山口のことや子育てについて、振り返っていただきました。



1. こどもステーション山口に入ってよかったこと
2. これからのこどもステーション山口に思うこと

新理事長 福山枝里さん

会員歴 19 年 20 代の息子 3 人
すきな絵本「わたしのワンピース」
特技「からあげをたくさん揚げること」

1. 子育てが楽しかった。なかよし男子 3 人の興味は、サッカー、カード、ゲームなどで、わたしは興味もなくて、話にも入れなかったけど、同じ舞台などををみること共通の話題ができたこと。初めて会う人が増えて、人付き合いが上手になったかも。
2. 団体の中で子育てをして、仲間と出会い、事務局で 9 年も仕事をさせていただきました。これからの未来に、豊かな文化体験を、そして多くの人との出会いと感動を分かち合える場づくりに取り組んでいきたいと思います。

前理事長 山本有希さん

会員歴 35 年
息子 2 人はすっかり大人、孫 2 人
特技「人前ではなすとき緊張しないこと」
座右の銘「迷ったら初心に戻る」

1. 子どもも大人も、おともだちができたこと。子どものつながりから大人へと、どんどん輪がひろがって、子どもからはもらえない情報ももらえました。正直、理事長になるとは思ってなかったです。経験豊富な人がたくさんいたし、でも、いろんな経験が財産になりました。
2. これからのこどもステーション山口。人がかわれば、組織も変わる。新しい風を吹かせて欲しいと思っています。

各地域ブロック それぞれの活動の一部をご紹介します！

大殿ブロック おおどのコミュニティ協議会助成事業
**わくわく発見！
夏のこどもひろば 2025**

大殿地域交流センター
7 月 23、30 日、8 月 6、20、27 日(水)

夏休みの平日、留守番も多いだろう子どもたちの、楽しい時間になればと企画した「夏のこどもひろば」。おおどのコミュニティ協議会の助成を受け、大殿地域交流センターのみなさんにもご協力いただき、今年も夏休みの水曜日、いろんなプログラムを用意して開催しました。

ひとりでもできるぐらい簡単なおかしづくりは、山口友の会のみなさんと。ちょっと賢くなりそうな科学実験教室は、サイエンスレンジャーの松村先生と。外で遊びたい人は、プレーパークのプレーリーダーと。恒例のボードゲームもたくさんスタンバイ。夏休み期間中の 5 日間、たくさん子どもたちが遊びにきてくれました。



おかしづくり



科学実験教室



プレーパーク

ブラ竹とんぼ、とばしたよ。



4 月 27 日(日)
亀山公園ふれあい広場



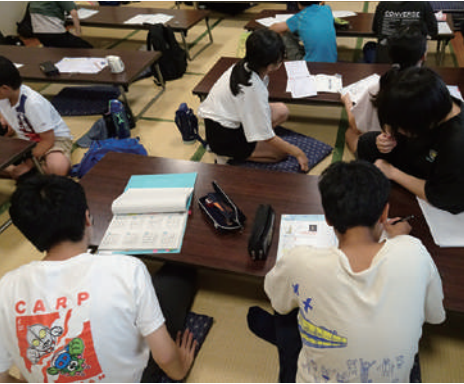
どれを選ぶか？スタンプ台紙

子どもたちの「ありんこ市」、おとなの「ぞうの市」に加え、今回は謎解きスタンプラリーを開催。それぞれのブロックで、子どもたちに問題を考えてもらいました。小さい子でも答えられるものから、おとなにも(おとなだから?)わからない難問までいろいろ。スタンプを押す台紙も、子どもたちが作ってくれたもの。各ブースの前で「ん〜?」と考え込む子たち。「あ!」ってひらめいてうれしそう。コンプリートしたら、小さなシールをはってもらいます。恒例の色水の付け合いって「ひっちゃかめっちゃか」もちろんありましたよ。ほんの数分間だけど、走り回って、付けて、逃げて、みんなカラフルな仕上がりに。



『勉強しない会?』

8 月 3 日(日)大殿地域交流センター
勉強するのか?しないのか?夏の課題や自学を持ち寄った「勉強しない会?」。開始 15 分ほどで次々と「息抜き」のカードゲームやボードゲームが始まり、昼食のホットドック、夕食の焼きそばとおにぎりで腹ごしらえ後もどうやら勉強は再開されず…。ラストはお寺周辺の肝試し。怖くて、楽しい、夜のヘンなテンションに、汗びっしょり。こんな 1 日もいいね。



子どもたちの体験と活躍がすてき！

吉敷地域交流センター共催
そうめん流しとスイカ割り大会
8 月 30 日(土) 吉敷地域交流センター

なが〜い竹の傾斜の付け方に
試行錯誤。流れてくるそうめん
やアメ、マシュマロを夢中でひ
とすくい。パカッと割れたスイカ
も、傷だらけのスイカも甘かつ
た〜。夏休みの終わりにいい汗
かいたね。



吉敷
ブロック

立て看板づくりとかき氷

8 月 31 日(日) 大歳地域交流センター

舞台鑑賞会「#TWO INSTANTS」の
立て看板づくりとかき氷の会を
開催。アイデアを出し合い、絵の
具や麻ひもを使った工夫いつぱ
いの看板を作成。かき氷機の大き
なハンドルをまわし、ガリガリ
出てくるかき氷にいろんな味の
シロップをかけて、さくらんぼ
もせて。



大歳・宮野・大殿
ブロック

こんな舞台をみてきたよ 舞台鑑賞会



オペラシアターこんにゃく座
オペラ
ルドルフとイッパイアッテナ
5 月 18 日(日) 山口市民会館 大ホール

コミカルだけどちょっぴりせつないネコの世界。心地よいピアノと迫力の歌声に心が洗われるような特別な時間でした。

- ネコの動きや、足音が聞こえないくらい足のタッチがすごいと思いました。
- 本とは違うオペラならではのよさがあって、とっても面白かったです。



ゆうくんとマツさんの
「かいじんハテナ?」

7 月 26 日(土)
山口情報芸術センター スタジオ A

そのたたずまいだけで圧倒される子どもたち多数…。うちのトイレ、ひとりで行けたかな? 迫力満点のステージでした。
●迫真の演技、歌声、くるくる変わる表情に引き込まれました。
●3 才の子が怖がりつつとても見入っていたので、よかったです。



日本独楽博物館
こまのおっちゃんのこまのサーカス
6 月 14 日(土)
湯田温泉こんこんパーク こんこん広場

こまのおっちゃんとおばんくんの達人芸に目がくぎ付け。体験ワークショップも楽しくて時間を忘れるほど夢中に。

- 数年前にみたおっちゃんよりももっとパワーアップしてて、嬉しかったです。
- こまのおっちゃんの表情、子どもたちとのやりとり、コマの技の驚き。



ピアノカの魔術師
#TWO INSTANTS

9 月 14 日(日)
山口県教育会館ホール

3 年ぶりの公演。彼らのパフォーマンスはいつも期待以上で、ジャズもアニソンも童謡もカッコイイ!! 世界平和と子どもたちへの思い、しっかり届きました。
●ピアノカが生き物みたいで迫力ある音でした。
●心の栄養満タンになりました。